

宮座研究における近江の位置

橋本章

宮座論の形成と展開における滋賀県下事例の意義について

Position of *Oni* in *Miya-za* Studies : Meaning of the Case Example in Shiga Prefecture in the Formation and Development of *Miya-za* Theory
HASHIMOTO Akira

はじめに

- ① 宮座研究における近江の事例の位置
 - ② 肥後和男による宮座研究と滋賀の事例
 - ③ 「典型的な宮座」「変形的な宮座」論争と滋賀の事例
 - ④ イメージとしての「宮座」の構築
- おわりに

【論文要旨】

宮座に関する研究は、かつては歴史学や民俗学、そして社会学など数々の分野がその研究対象として注目してきた課題であった。それは、ひとつには宮座を題材とした研究について、歴史学や社会学など数多の分野の研究者が取り組むという、学際的な雰囲気なかでその議論が醸成されてきたことも深くかかわっているようにも見受けられる。しかしながら、研究課題の細分化が進んだ昨今の状況では、宮座を主題化した研究がさほどの進展を見せないまま沈滞するに至っている。しかし、民俗として各地に伝承されている宮座事例は、村落史や村落共同体のあり方を解明する指標として有効である。宮座という課題を今一度各分野それぞれの研究の俎上にのせるためには、これまでの議論がどのような背景を持つ研究者からどのように提示され、またその議論が展開されてゆく過程で、その対象となった事例がどのように取り扱われてき

たのかを検証する必要があるものと思われる。

肥後和男による近江の宮座事例の歩に始まる滋賀県下の本格的な宮座研究は、「株座」と「村座」という宮座概念の本質にも迫る課題を世に示し、また萩原龍夫が馬淵の宮座を題材として提起した「典型的な宮座」という言説もまた「宮座とは何か」という議論を醸成する契機となった。ただ、滋賀県下の事例への偏重がみられる宮座研究には、若干の危うさもまた指摘できるものと思われる。また、民俗事例から類推された宮座と村落史との関連性についても、馬淵の宮座をめぐる萩原の説に対する「典型的」か「変形的」か、といった論争にみられる如く、宮座を研究する者達の事例に対する印象の如何によって、その様相は一変する可能性も孕むのである。

【キーワード】 宮座文献目録、肥後和男、萩原龍夫、史料と伝承、物語